

ついでまつ COMMUNICATION

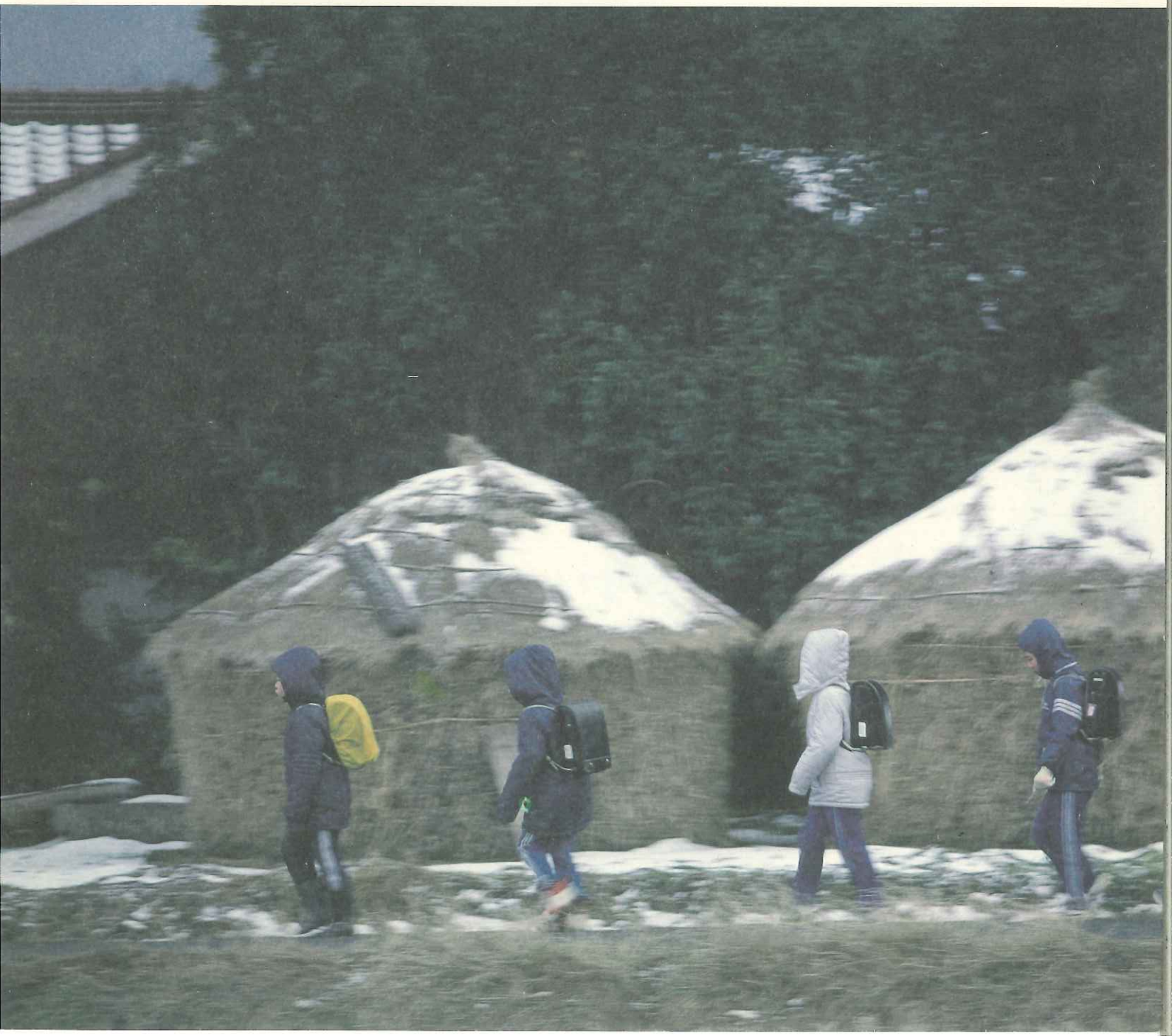


ついでまつコミュニケーション:築地松情報誌2000.12月 発行-築地松景観保全対策推進協議会

「おかげさんで、この築地松がだいぶ風よけや雪よけになってごしますけん」
外の道では、子どもたちが寒そうにフードを立てながら家路を急いでいる。もうすぐ白い冬、築地松が一番がんばる季節かもしれない。そして、その鮮やかな緑は誇らしい築地松の勲章か。



「よその神さんが帰られましたから冬が来ましたで」
炬燵に入り、ガラス戸越しに築地松を見上げながら、おばあちゃんのひとり言。
雪を連れてくる北西の風と、色合いのうすれた景色の中で、ひとときわ鮮やかな松の緑。



祝 築地松景観保全 知事表彰

さる平成12年10月10日に築地松景観保全住民協定の認定4地区が、昨年に引き続いて今年も島根県知事から表彰されました。今年の表彰も、この協定地区の中でも特に良好な築地松景観を保全しており、積極的に陰手刈りや松くい虫防除に取り組み将来の維持管理

も期待できる協定区域について、築地松景観保全対策推進協議会が知事に推薦し、表彰されたものです。また、表彰式では澄田県知事が「今日までの皆様の多大なる御努力と御苦労に敬意を表す。出雲平野の築地松と散居の織りなす景観は全国に誇れるものであり、今後も守っていただきたい。」と述べられ、築地松景観保全推進協議会の長岡会長が「この表彰を励みにいたしまして、今後とも、地域住民の皆様と力を合わせ築地松景観を守っていきたくて考えております。」とお礼を述べました。

なお、表彰を受けられた地区は次の4地区です。

● 大社町
 [上北中二地区築地松を活かしたまちづくり住民協定]
 協定者数:9戸/築地松所有者数:9戸
 取組んでいること/築地松を活かしたまちづくり協定を締結し、協議会の助成制度等を利用してそれぞれが計画的に陰手刈りを実施している。

● 平田市
 [新組町内築地松を活かした緑あふれるまちづくり住民協定]
 協定者数:20戸/築地松所有者数:19戸
 取組んでいること/地区内の陰手刈り職人を中心に築地松景観を保持するため、陰手刈り等を積極的に行っている。

● 斐川町
 [久木中組地区築地松を活かしたまちづくり住民協定]
 協定者数:19戸/築地松所有者数:18戸
 取組んでいること/地区の常会などの集会の際に、声をかけあって陰手刈りや新植を積極的に実施している。また毎年、時期を決め松くい虫防除や病害虫駆除を行っている。地区内に自ら陰手刈りや薬剤散布をする人がおり、築地松保全につとめている。

● 出雲市
 [出雲市松寄下町中横引町内築地松を活かしたまちづくり住民協定]
 協定者数:19戸/築地松所有者数:19戸
 取組んでいること/地区全体として、陰手刈り等に力を入れ、協議会の助成制度も積極的に活用されており、築地松の高さをそろえるなど景観に配慮した手入れがなされている。

暮らしの中で「家とともに受け継がれる松」尾添辰二・栄子さん(出雲市松寄下町)

平成12年10月、出雲市の中横引地区が築地松景観保全知事表彰を受賞した。この地区で築地松を持つ家々のとりまとめ役をしている尾添さん宅。ここには100年以上の歴史を刻む松がある。

「私が生まれたときからあるものでね。築地松は、あって当然といった感じですよ」と語るのは御主人の辰二さん。中横引には昔からある家が多い。それだけに誰もが、我が家を守る意識を強く持っているのだという。

「厳しい浜風から家を守ってくれるのが築地松です。ですから、松を辞めようと思う人はここにはいません」辰二さんがニコリとしてそう言う「それとね、こんなに立派な松は余所には無いよって言われるとウレシクなりますね」と顔を見合わせて奥様の栄子さん。

今でも時々、コデ(松の枝葉を小さく切り落としたもの)で風呂を炊くという。昔ながらの湯の温もりは、孫の代へと伝わっている。



新シリーズ 散居景観ネットワーク Vol.2 「富山県・砺波平野」



水鳥が浮かんでいるように見える砺波散村

砺波市は、富山県西部にある砺波平野のほぼ中央に位置する人口4万人あまりの田園都市です。砺波平野は主に庄川がつくった扇状地で、その大部分に散居が広がっています。各農家は東向きで、カイニョと呼ばれる屋敷林に囲まれ、100~150mずつ離れて建っています。散村地域の広さは約220km²、散居民家は約1万戸を数え、日本でも最も典型的な散村として知られています。明治31年(1898)地理学者の小川琢治博士が当地を訪れて散居の景観に注目し、後に「孤立荘宅」と名付けて学会に発表してから散村に関する研究が盛んになりました。

砺波平野は中世末から開け、まず微高地を選んで住居を定めその周りを耕すという形で散居がつけられ、用水の整備とともに平野全体に広がりました。耕地が家のまわりにあることが農業のうえでも都合

がよかったので、長く続いてきたといえます。屋敷林はスギが中心で、ほかにアテ(アスナロ)・ケヤキ・カシ類・竹・柿・栗などで、風が強く吹く西南側に厚く植えられています。冬の風雪から散居の家を守り、この地方特有のフェーン風をふせぐはたらきをもっています。また、落葉や枯れ枝は燃料として、竹は日常生活の資材として重要なものでした。

最近の砺波平野は、住宅団地や各種事業所の進出、自動車道をはじめとする道路の整備などにより散村景観に変化が現れています。そこで、いまあらためて環境保全の立場から散居や屋敷林の持つ新しい価値が注目され、保全への論議が高まりつつあります。

(富山県砺波市 砺波散村地域研究所事務局長 須山盛彰)



カイニョ(屋敷林)に囲まれた砺波の民家 ~アスマダチの母屋、手前左が土蔵、右が納屋~



築地松景観保全対策推進協議会からのお知らせ

当協議会では、毎年、「陰手刈り」さんをご紹介しています。自宅の築地松の剪定時期をむかえられている皆様、是非、連絡をされてみてはいかがでしょうか? なお、連絡は「陰手刈り」さん本人に直接お願いします。

郵便番号	住所	氏名	電話番号	陰手刈りを行う期間	陰手刈りに行ける地域
699-0721	砺川郡大社町大字修理免1405	上田忠	0853-53-2708	春	大社町・出雲市
699-0732	砺川郡大社町大字入南476-2	永岡勝蔵	0853-53-1800	2月~12月	大社町・出雲市
699-0731	砺川郡大社町運堀1165	長廻浩	0853-53-1624	3月~4月・9月~12月	出雲市・大社町・斐川町
699-0554	砺川郡斐川町三分116	錦織進	0853-62-4264	10月~翌年3月まで	斐川町・出雲市
699-0643	砺川郡斐川町大字原鹿453	坂本芳友	0853-72-3474	主に春	主に斐川町内
699-0502	砺川郡斐川町大字荘原町3420	樋野良吉	0853-72-3233	1月~4月	斐川町・出雲市・平田市
699-0502	砺川郡斐川町大字原町2880-3	坂本行弘	0853-72-9721	年中	斐川町・出雲市・平田市
699-0501	砺川郡斐川町大字学頭1815	(有)高橋造園	0853-72-6508	5月~9月	砺川郡・出雲市
691-0003	平田市瀬分町2620	石原勝之	0853-62-3983	年中	平田市・出雲市・斐川町・大社町
693-0021	出雲市塩冶町867-7	出雲地区森林組合	0853-22-4433	年中	出雲一円
693-0031	出雲市古志町996	金本武夫	0853-24-3528	年中(梅雨時期は除く)	出雲市・平田市・斐川町・大社町
699-0822	出雲市神西沖町479-2	柘植観象園	0853-43-1882	1月~3月	出雲市・平田市・斐川町・大社町
693-0005	出雲市天神町307-12	遊木穂・恒夫	0853-22-3543	春・秋	出雲市
693-0006	出雲市白枝町814-3	中湯忠吉	0853-23-4043	年中	出雲市・大社町・斐川町
693-0067	出雲市矢尾町614-1	宮本光敬	0853-24-1609	年中	出雲市・大社町
693-0067	出雲市矢尾町630	若槻文夫	0853-24-1342	1月~4月	出雲市・大社町・斐川町
693-0067	出雲市矢尾町下沢175-27	福代麗正	0853-24-2026-1449	年中	出雲市内
693-0005	出雲市天神町253-1	田中俊雄	0853-22-0860	年中	出雲市・平田市・大社町・斐川町

※順不同・敬称略 ※掲載に同意していただいた陰手刈りさんのみ載せています。上記以外の陰手刈りさんで、ご紹介をご希望される方がありましたら、協議会までご連絡ください。

築地松物語



築地松の中―屋敷荒神のこと

築地松はまずその外観に特色があるが、それとともにこれで囲まれた屋敷の内にもまた他地方には例の少ない事柄がある。その一つとしてここに荒神さんのことがある。

もちろん荒神を屋敷内に祀る風は全国的といってもよいが、それでもここほど多い所は少なく、しかもここではその多くが位置を乾(西北)の隅としていた。先年斐川町教育委員会が行なった直江地区での調査でも、四十四戸中三十九戸が荒神を祀り、しかもそのうち三十一戸までがその位置を乾の隅としていた。祀り様はさまざまであって、単に神木だけの所、立石を憑代としていた所、あるいは小さいながらも祠を設けている所、といろいろであるが、とにかくこれをもって家の守り神としている家が非常に多い。

では荒神とはいったい何かというに、この言葉は古く『古事記』『日本書紀』の時代からあって、読みも古くはアラブルカミであった。それをコウジンと音で読むようになったのは中世からであるが、ことほどさようにこの神はもともと荒ぶる神であり、いわゆる荒魂であった。しかし、古い時代にはそういうおぞましい神だからこそありがたい、頼りがいがあるという信仰があった。だから荒地を開拓して屋敷を設けるといふ時にはまずこの神を祀った。そして最初は本家だけであったが、やがて分家がふえるにつれ、分家も次々とこれを祀るようになったというわけである。

それにしても、これをなぜ特に乾に祀り出したものか。この点が一番むずかしいが、これはかつて陰陽道という、古代中国に始まる一種の宗教理論があって、その教師である陰陽師、またその教義をとり入れた修験道の山伏などが活躍したためであろうと考えられる。陰陽道では方位といふことをやかましくい、東北を鬼門とし、これから西南に向う線を凶線と呼び、そしてこれと直交する方向を福線とし、その始点である乾を一番の聖地とするが、そういう教えによって神を祀るならば乾ということにしたものと思われるのである。

(石塚尊俊)

筆者紹介

石塚尊俊(イシツカ タカトシ)

1918年出雲市生まれ。國學院大学卒業。文学博士。雲根神社(出雲市)名誉宮司。中学校・高等学校教師、島根県教育委員会文化財主査、島根大学教育学部非常勤講師、広島修道大学人文学部・大学院教授などを勤める。山陰民俗学会名誉会長。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課	〒690-8501 松江市殿町1番地	電話0852-22-6143	平田市建設経済部農山村整備課	〒691-8601 平田市平田町951-1	電話0853-63-5546
島根県出雲総務事務所(総務課)	〒693-8530 出雲市大津町1139	電話0853-23-1515	斐川町ふるさとデザイン課	〒699-0592 斐川町大字荘原町2172	電話0853-73-9210
出雲市建設事業部建築課	〒693-8530 出雲市今市町109-1	電話0853-21-2211	大社町観光商工課	〒699-0782 大社町大字杵築南1395	電話0853-53-3111
つじまつホームページアドレス http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/					